



館長だより

山形県産業科学館

令和 8 年 2 月 2 0 日 (金)

発行 館長 加藤 智 一

小田原の新名物「半生アジフライ」食べてみた



市早川は小田原漁港「さじるし」。行列必至の人気店です。

アジは白身魚と違い、旨味の主体が血合いと脂にあります。完全に火を通すと、この脂が流れ出てしまい、身がパサつきやすい。そこで、中心をレアに留めることで、旨味の流出を防ぎしっとりした食感を残すと共に、アジ特有の香りを活かすというのが「半生アジフライ」。「半生アジフライ」は、刺身で食べられるほど鮮度の良いアジでないと成立しません。普通のアジフライは加熱で雑味を飛ばせますが、半生だと素材のよし悪しそのまま味に出てしまう。「半生アジフライ」は、実はとても高度な調理なのです。衣はカリッと中心はレア、余熱で火が入りすぎないように調整しなければなりません。この三つを同時に成立させる必要があるため、油温・厚み・衣の水分量など、職人の経験がものを言うわけです。また、半生にするということは、雑味が隠せないということでもあるので、多分ですが、血合いの処理とか、水分の拭き取りとか、臭みを出さない温度管理とか、身の厚みに合わせた切り方といった下処理と言うか、見えない仕事かものを言う世界なのだと



思います。是非皆さんも、ご賞味あれ。

大絶滅展の見どころ

2025年11月1日～2026年2月23日（早く行かないと終わっちゃうよ!! かなりの人出は覚悟してね）会場は上野の国立科学博物館です。以下見どころご紹介。

1. 科博史上初の「ビッグファイブ」特化展示

地球史で起きた5回の大量絶滅（ビッグファイブ）をテーマにした展示は、国立科学博物館では初。生命誕生から40億年の歴史を、絶滅と進化の視点から総合的にたどる構成です。

2. 世界初公開・日本初公開の標本が多数

モロッコなど海外の調査成果を含む、貴重な化石・岩石標本が展示されます。恐竜全身骨格や大型海生哺乳類化石など、迫力ある実物資料が揃うのも魅力。

3. 巨大球体映像「大絶滅スフィア」

会場に入るとまず目に入るのが、球形の映像展示「大絶滅スフィア」。ビッグファイブの地球規模の変動を、没入感のある映像で体感できます。

4. 火山活動を“体感”できる模型展示

史上最大の絶滅（P-T境界）に関わる火山活動を、模型展示で視覚的に理解できる仕掛けがあります。地質学・古気候学の視点が強く、学術的にも見応えがあります。

5. 福山雅治さんによる音声ガイド

スペシャルナビゲーターとして福山雅治さんが参加。音声ガイドや映像ナレーションで、展示の理解を深める演出が加わっています。

6. 子どもでも分かりやすい時代別展示構成

各絶滅イベントが時代ごとに整理され、何が起きたのか、なぜ絶滅が起きたのか、絶滅後にどんな進化が起きたのかが、化石・模型・映像で理解できるよう工夫されています。

因みに、ダイナソープレート（骨付き鶏モモ肉カレー）いただきました。美味しかったです。↓

